

人が活きる環境の創造

自主評価の凡例 = 目標達成 = 一部未達 = 未達

課題（重要課題は★）	KPI	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	中長期目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
★モノ・コトづくりの クオリティの追求 ★イノベーションの推進と 新しい価値の創出 78912	中期経営計画2025 参照 2023年5月10日 開示 中期経営計画2025 説明資料 https://ir.okamura.co.jp/ library/managementplan/	●企業の成長を支え多 様な働き方に応える ソリューションの提供 ●小売業が抱える社会 問題の解決とみらいの 店づくりの研究・開発 ●スマート物流に貢献 する製品・サービス の開発 ●産業車両向けの環境 対応型製品の開発	●企業成長を支えるハ イブリッドワークや人 材確保に向けた経営 課題解決型需要が売 上利益に寄与 ●みせいくらボを中心 に店舗運営の最適化 のためデータ活用の 研究開発が進展 ●スマート物流に貢献 する製品・サービス の開発は事業化の前 段階まで進展😊	●豊富な納入実績・知 見を活かしたデザイ ン力・コンサル力の強 化と新製品・サービス 開発の推進 ●ワンストップでの店づ くりサービス力を活か したデジタル製品の 拡販・店舗運営支援 サービスの開発・顧 客領域の拡大と省エ ネ型冷凍冷蔵ショー ケース新製品の開発 ●物流センターにおける 市場・顧客領域の特 化とサービス事業の 拡大による収益性の 回復 2026年5月29日 開示 中期経営計画2028 https://ir.okamura.co.jp/ library/managementplan	顧客・社会への新たな 価値提供による「人が 活きる社会の実現」							7.a	8.2 8.5	9.4 9.5			12.5 12.8					
★安全な製品・ サービスの提供 912	重大製品事故発生件数 * 重大製品事故の定義: 当 社製品により、生命・身 体に重大な被害を及ぼし た事故、および製品以外 の財産に火災等の重大な 被害を及ぼした事故	0件	0件😊	0件	—									9.4 9.5			12.4					

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています

地球環境への取り組み

自主評価の凡例 = 目標達成 = 一部未達 = 未達

課題（重要課題は★）	KPI	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	中長期目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
★ サークュラー エコノミーの推進 367 91213 141517	省資源・廃棄物削減による資源循環の推進	生産系廃棄物等排出量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	原単位前年比 4.0% 低減	生産系廃棄物等排出量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	2030年度生産系廃棄物の2020年度比 9% の排出量原単位低減												12.2 12.4 12.5 12.7	13.1	14.1	15.1 15.2 15.3 15.4 15.5		17.16 17.17
	製品開発における環境配慮型企画と設計推進	環境配慮開発製品の管理指標の設定と実態把握	アセスメント管理により、企画時適用率や量産時達成率を管理指標として実績測定	環境配慮製品の販売比率向上	—			3.9			6.3	7.3 7.a		9.4								
★ 持続可能な自然資源の利用と保全 61213 141517	森林資源の持続可能な利用の推進	合法木材確認フローの構築	FSC更新審査により認証継続木材調達の合法性を確認	持続可能に管理された木材製品群の拡大検討	—						6.3 6.4 6.6						12.2 12.5	13.1	14.1	15.1 15.2 15.3 15.4 15.5		17.16 17.17
	環境影響度の低減	水資源使用量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	原単位前年度比 7.0% 低減	水資源使用量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	2030年度 10% の水資源使用量削減（2020年度比）																	
★ 気候変動問題への貢献とカーボンニュートラルの実現 7913 1517	地球温暖化防止対策の推進 ● 温室効果ガス排出量低減 ● 燃料系エネルギー使用量低減	グループ全体でスコープ1+2排出量2020年度比 36.0% 削減 ● 工業用燃料使用量5年度平均1.0%低減 ● 車両用燃料使用量5年度平均5.0%低減	CO ₂ 排出量2020年度比 34.3% 削減で推移 ● 工業用燃料使用量5年度平均1.6%増加 ● 車両用燃料使用量5年度平均0.9%低減	グループ全体でスコープ1+2排出量前年度比 5.0% 削減 ● 工業用燃料使用量5年度平均1.0%低減 ● 車両用燃料使用量5年度平均5.0%低減	2030年度温室効果ガス排出量 50% 削減（2020年度比）、2050年カーボンニュートラルを目指す																	
	エネルギー生産性向上	省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 ● 生産系エネルギー消費原単位社内完成高あたり前年度比 1.1% 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位総人員あたりのエネルギー消費原単位維持	● 生産系エネルギー消費原単位前年度比 5.1% 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位前年度比 4.8% 低減	オカムラおよび国内グループ製造会社で省エネ法対応によるエネルギーの効率利用 ● 生産系エネルギー消費原単位社内完成高あたり前年度比 1.1% 低減 ● 事務所系エネルギー消費原単位総人員あたりのエネルギー消費原単位維持	2030年度エネルギー生産性向上 10% （2020年度比）							7.2 7.3 7.a		9.4			13.1			15.1 15.2		17.16 17.17
ものづくりでの環境保全活動 36911 121415	環境影響度の低減	PRTR排出・移動量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	原単位前年度比 2.7% 増加	PRTR排出・移動量社内完成高あたり前年度比 1.0% の原単位低減	2030年度 10% のPRTR排出・移動量原単位削減（2020年度比）			3.9			6.3 6.4			9.4		11.6	12.4		14.1	15.1 15.2		
環境汚染の防止 3611 121415	汚染予防・有害化学物質対策	大気汚染・水質汚濁・土壌汚染防止、水銀含有廃棄物の適正処理、フロン関連設備の点検実施と漏えい量管理	法令違反なし	大気汚染・水質汚濁・土壌汚染防止、水銀含有廃棄物の適正処理、フロン関連設備の点検実施と漏えい量管理	環境法令の遵守と情報収集			3.9			6.3 6.4					11.6	12.4		14.1	15.1		

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています

従業員の働きがいの追求*

自主評価の凡例 = 目標達成 = 一部未達 = 未達

課題（重要課題は★）	KPI	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	中長期目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
★ Work in Life （ワークインライフ） の推進 3 8	従業員満足・エンゲージメントの向上	●エンゲージメントスコア向上 ●重点改善項目の設定 ●改善施策の実施 ●Dレーティング組織の改善	●エンゲージメントスコア「Bレーティング」達成、前回比スコアの向上 ●従業員へ全体結果および本部方針を周知 ●所属長に対する研修の実施 ●職場共有会の実施 ●Dレーティング組織に対する支援を本部別に実施	エンゲージメントスコア「Bレーティング」の維持	「Bレーティング」維持			3.4 3.d					8.2 8.5 8.8									
	女性従業員比率	23%	22.7%	23.0%	2035年 30%																	
	女性管理職比率	7.5%	8.6%	8.7%	2035年 15%																	
	男性育休取得率	70%	79.5%	80.0%	—					5.1 5.4 5.5			8.5		10.2 10.3							
	（男性育休＋配偶者出産休暇）取得率	100%	100.0%	100.0%	—																	
★ キャリア形成支援と 専門人材育成の強化 4 8	障がい者雇用率	2.50%	2.57%※	2.70%	—																	
	育成面談実施率	100%	98.8%	100.0%	—																	
	強みにつながる専門職への各種施策の実施	継続して各事業本部の戦略に沿った専門人材の育成プログラムの企画運営	●DX ラーニングプラットフォームの実施 ●建築施工管理技士の講習実施 ●デザイン思考習得のためのオカムラシンキングの開催 ●必要資格の抽出 ●Team e-learning を活用したシステム開発・ITスキルの習得	継続して各事業本部の戦略に沿った専門人材の育成プログラムの企画運営	—				4.3 4.4 4.5 4.7 4.a			8.5										
健康と安全に配慮した 職場づくり 3 8	オカムラ ユニバーシティ受講アンケート「今後のキャリアに活かせる」	受講者の95.0%が今後のキャリアに活かせると回答	受講者の94.9%が今後のキャリアに活かせると回答	受講者の95.0%が今後のキャリアに活かせると回答	—																	
	年次有給休暇平均取得率	80%	74.2%	80.0%	—																	
	一般定期健康診断受診率	100%	100.0%	100.0%	100%																	
	ストレスチェック受検率	100%	99.9%	100.0%	100%			3.4 3.5 3.8 3.a 3.d					8.5									
	喫煙率	24%	25.6%	24.6%	2025年度 前年より－1%																	
	「積極的支援」「動機づけ支援」の対象者比率（40歳以上の健診受診者）	各8.5%、5%	「積極的支援」対象者比率 7.71%、 「動機付け支援」対象者比率 4.47%	成果評価として不十分 なため2026年度より目標管理を実施しない	—																	

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています
*対象範囲：オカムラ単体
※障がい者雇用促進法で義務付けられた直近の2026年6月1日時点の状況

責任ある企業活動

自主評価の凡例 = 目標達成 = 一部未達 = 未達

課題（重要課題は★）	KPI	2025年度目標	2025年度実績	2026年度目標	中長期目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
★ 公正・透明・誠実な行動 5 8 10 16 17	サステナブル調達調査実施率	取引金額ベースで70%以上達成	取引金額ベースで70%以上達成 	取引金額ベースで70%以上達成	—																	
	サステナブル調達 実地監査 実施率	ハイリスクサプライヤーに対して100%	ハイリスクサプライヤーに対して100% 	ハイリスクサプライヤーに対して100%	—																	
	人権教育（社内）の実施と充実、サステナブル調達との相乗効果	購買関連部門へ教育継続	継続実施 	購買関連部門へ教育継続	—					5.1 5.2			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.5 16.7	17.16
	入社時および新任役職者向けコンプライアンス教育実施率	100%	100% 	100%	—																	
	コンプライアンス研修の充実	● 全社コンプライアンス研修（3回／年）実施 ● その他課題別研修の実施	● 全社コンプライアンス研修（3回／年）実施 ● その他課題別研修の実施 	● 全社コンプライアンス研修（3回／年）実施 ● その他課題別研修の実施	—																	
★ リスクマネジメントの強化 10 11 16	BCP（災害）構築	● 災害対応マニュアルの見直し ● BCPの広報・周知	● BCPに合わせる形で災害対応マニュアルの見直しを継続中 ● 構築したBCPについて全社広報するとともに、別途e-learningによる概要の広報・周知を実施 	● 災害対応マニュアルの見直し ● BCPの検証	—										10.3	11.b					16.3	
★ 適正な情報開示とステークホルダーとの対話 16 17	ステークホルダーとの対話継続と取り組みへの反映	● ESG関連各外部有識者とのステークホルダーダイアログ実施 ● 投資家との創造的対話	継続実施 	● ESG関連各外部有識者とのステークホルダーダイアログ実施 ● 投資家との創造的対話	—																16.7 16.10	17.16
地域社会との共生 17	戦略的社会貢献活動の定着	従業員参画型社会貢献の継続	従業員参画型社会貢献活動実施 	従業員参画型社会貢献の継続	—																	17.16 17.17
コーポレート・ガバナンス 5 8 10 16	取締役会の多様性、独立性、客観性の充実によるガバナンス強化	● 独立社外取締役100%の維持 ● 女性取締役比率25%以上	● 独立社外取締役100%の維持達成 ● 女性取締役比率25%達成 	● 独立社外取締役100%の維持 ● 取締役会の実効性評価の実施と課題対応	—					5.1 5.2			8.5		10.2						16.7	

上記数字のマークは関連するSDGsを示しています